長崎純心大学

学生相談室だより

第１８号
2009．１０．20 発行

学生相談室のご案内
開室曜日：月曜日～金曜日
開室時間：12:00～16:00
場　　所：保健センター内

秋風が肌に気持ちいい季節になりました。季節の変化とともに学生相談室も新しい場所でカウンセリングをスタートしています。スポーツ、読書、芸術・・・長崎くんち、純心祭・・・楽しみが多い季節ですね。カウンセラーからのメッセージで新しい何かを感じることができるといいですね。

～　カウンセラーからひとこと　～

天平の美少年を見て

淺香　佐輝子（木曜日担当）

見に行きたいと思っていた九州国立博物館の“国宝 阿修羅展”をシルバーウィークにやっと行くことができました。見学者がとても多く、外のテントにかなり並ぶと聞いていたので、携帯電話で待ち時間を調べながら行きました。その日も朝一番から、240 分待ちと書いてあり驚きましたが、閉館近くに行くと、30 分並んだあとは人も減り、じっくりと拝むことができました。

153cm という意外にも小さい阿修羅立像は、三つの顔と六本の腕を持ち、眉をひそめてまっすぐに見据えている正面のお顔以外は、耳も片方ずつしかないにもかかわらず、不自然さを感じない、とても美しい均整の取れた、まさに「天平の美少年」でした。

正面向かって左のお顔は、眉を寄せ唇を噛み締めていて、怒りを懸命にこらえているのでしょうか、また右のお顔は、眉と目を強く引き寄せて正面よりも厳しい表情に感じました。六本の細い腕は、第 1 手は合掌。第 2 手は天を仰いでいて、造立時は太陽と月を掲げていたと言われ、第 3 手はもとは弓と矢を持っていたと言われています。

この人間を超えた三面六臂の姿と、何かを獲ろうと一生懸命に胸に秘めている様なそのお姿が、1300 年を経た現在でも、多くの人々の胸を打つのでしょう。ガラスケースなしで 360 度拝めるのは、今世紀最後かもしれないと言うことで、遠くは関東、北陸からも見に来られたと聞きました。

木彫かと思われたその作りは、粘土の原型に麻布を貼って固め、中の粘土を取り除き、表面に木粉と漆を練り合わせたもので作られているとのことです。造立当時の色合いは、1985 年に復元されていますが、全身に強烈な朱の色が塗られ、装身具は金色、衣は金色で縁取られた緑と朱色という、それは派手なものでした。また顔には髭を蓄え、インドやイスラムの影響を受けていた阿修羅立像でした。おそらく、遠い異国に憧れた当時の人々の特別な思いを、百済の工人達に託して作られたものなのでしょう。

しかし、今回の展示がもとの派手な阿修羅立像であったとしたら、はたして並んで待つほどの人気があったでしょうか？私は復元された像には違和感を覚えてしまいました。派手な阿修羅は、シルクロードの砂漠の色の中に居た人々が求めてきたものなのでしょう。奈良時代以降の長い時の中で、日本人は四季の豊かさゆえに“わび、さび”を重んじるという独自の文化を作り出しました。その時の移りの中で、表面の派手な色が剥げ、漆だけが残り、木質様の閑寂な阿修羅になったからこそ「天平の美少年」と言われ、多くの人に親しまれる、日本の阿修羅になったのではないでしょうか。

作家、堀辰雄は、この阿修羅立像について次のように書いています。「・・・ちょうど若い樹木が枝を拡げたような自然さで、六本の腕をいっぱいに拡げながら、何処か遥かなところを　何かをこらえているような表情で、一心になって見入っている阿修羅王の前に立ち止まっていた。なんというういういしい、しかも切ない眼差しだろう。こういう眼差しをして、何を見つめよとわれわれに示しているのだろう。・・・」（「大和路・信濃路」より」

さて、皆さんは、この阿修羅の凛とした表情の中に、何をお感じになりますでしょうか？　機会がありましたら、是非ご覧になってください。

赦しの花

川浪　由喜子（火・水・金曜日担当）

今年もまた、「9.11」がやってきました。2001 年９月 11 日、アメリカで同時テロが起き、世界は大きく変わってしまいました。アフガニスタン、イラクでの戦争は今も続き、先が見えません。人間は、いつまで、憎しみ、報復の連鎖を続けていくのでしょうか？

そう思っていた時、あるブログで「赦しの花」というすばらしい絵本があることを知り、さっそく読んでみました。これは、日本が戦争で負けて５年後、シベリアで捕虜として働かされた人のうち 1000 人ほどが、中国の撫順（ぶじゅん）戦犯管理所という施設に移された時のお話です。この 1000 人ほどの元日本兵は、ほとんどが、戦争中、中国で重い罪を犯した人たちでしたが、そこでは人間として大切に扱われました。どの部屋もさっぱりと清潔で、食事もご飯も魚も肉も腹一杯食べられ、強制的に働かされることもなかったそうです。管理所の職員は、彼らを大声で叱ったり、見下してののしることもなく、自分の犯した罪に気付くまで辛抱強く待ち続けたのです。そういう中で、次第に彼らは良心に目覚めていきました。

「かつて自分が中国人にしたことを考えれば、八つ裂きにされて殺されて当然なのに、どうして何不足ない生活をさせてくれるのだろうか・・・。」「今、自分を世話してくれている人たちが、かつて自分が手にかけ殺した人々の親兄弟であることを思うと自分の罪をどう償ったらいいのかわからない・・・。」こんなふうに、真剣に考え、読書をし、話し合う中で少しずつ「人間」の心を取り戻していきました。そんなある日、ついに、自分の犯した罪を隠さずに話す人が出てきて、それから、せきを切ったように次々と告白は続きました。そうして、心から罪を認めたとして、誰一人として殺されることなく赦されたのです。

日本に帰る日、管理所の先生は、ある人に「もう二度と武器を持ってこの大陸へ来ないでください。日本へ帰ったら、きれいな花を咲かせて幸せな家庭を作ってください」と言って、朝顔の種を手渡してくれました。それをもらった方は、その後、毎年ずっと大切に育て続けているそうです。「赦しの花」が「非戦の花」になるようにと・・・

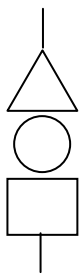
私は、この話を聞いて、本当に感動しました。被害者と加害者が苦難を乗り越え、手をつないだという歴史的事実は、憎しみ、報復の連鎖がいまだに続く中で、希望の光です。そして、人間を信頼し、尊重することで、人がいかに変わっていくかということを改めて学んだように思います。

『伝える』ということ

瀬頭　りつ子（月曜日担当）

「♪まるかいてちょん、まるかいてちょん、おまめにめがでてうえきばちー、うえきばち♪」みなさんはこの歌を知っていますか？ご存知の方もいるかもしれませんが、今も昔も変わらず国民的なアニメキャラクターである「ドラえもん」の絵描き歌なんです。最近はあまり聴かなくなりましたが、私が小さい頃は絵描き歌の手順に合わせながらドラえもんを描いていくアニメの映像が、この歌と共に放送されていました。

ところで先日、私はある方から「棒を２本と三角・丸・四角をそれぞれ描いてみてください。これは何でしょう？」というクイズを出されました。その時、私は答えが分からなかったのですが・・・



これ、何に見えますか？そう！！分かった方もいらっしゃると思いますが、答えは「おでん」だったんです。なかなか答えが分からない私を見て、このクイズを出題した方は、「自分が思っていることを言葉で伝えるって、難しいものですね」と言っていました。その方がおっしゃったとおり、自分の気持ちや思いを伝えることは大切でありながらも、伝え方によってはなかなかそれが伝わらず、時にはもどかしく思ってしまうこともあるかもしれません。ただし、気持ちや思いを伝える手段は１つだけではありません。例えば「ことば」１つをみても、会話の中で用いられる「話しことば」もあれば、手紙やメールなどに書いて伝える「ことば」もあるでしょうし、自分の気持ちを詩に乗せて表現する際の「ことば」もまた違ったものになるでしょう。また、私は背が低いのですが、「チビ！」と言われた時と「小柄だね」と言われた時の印象が異なるように、同じ事柄でも用いることばによって伝わり方が変わってきます。更に「ドラえもんの絵描き歌」ではありませんが、自分の思いを絵やイラストといった芸術的なもので表現することもあるでしょう。

これから先、就職して社会に出た時や身近な人たちとのつながりの中で、今までとは違った形で自分を表現しなければならない機会が出てくるかもしれません。それを考えると、今のうちに「どのようなやり方だと、自分が思っていることを、自分も相手も納得できる形で表現することができるか？」など、自分に合った伝え方を考えていけるといいですね。